



大和物語

下



百三十七
蔵書

百三十七

大和物語下

先帝の四子ありわつみさきしおろしきけり
^はわりきりみさきしおろしきけり
 かりとらふとあらせむらうとてなす
 ちかきつゆくのゝめをせけり

^{毒酒} わそのりもかまななるや
 わあはたひとちわらむとておほ

このまむもむとわらむのそらあしはりあわ
 うととあむしてふねあまのひわくさつらあさ
 おんのもろひしとあつりなねあまのまあつり
 るてしてはひのそけり
 るてしてはひのそけり

三葉あはれあつりなねあまの中納をわあはれ

蔵書

蔵書

新抄撰題不知姓
 五文字副阿ソテクニ
 フレヤリケリトアリ

物カハ心ナシト名残ニ
 金キルモハキヌノ

百三十八

とせたりけり

くもぬのそもの一たぐにみくは
あまもぬのひらううーありあり

水ニカク 草ナラ 短カ之ト云テ心ナカリ 我ヲ思ヒシキト云 申セイタケヒキナリヨヨメ
みくはくもぬのひらううーありあり

あいらーとーとーあまぬのうら

このやじとひらううーあまぬのうら

百四十二

先帝乃西上御り 兼香殿乃心懸ぬの如きり

後撰作者兼香殿官女

り中納言のまゝとてあまぬのうら

元良陽成院二宮

あまぬのまゝとてあまぬのうら

のまぬけのうら兼香殿乃心懸ぬの如きり

けうらうわりあまぬのうら

元良の息所へシタレニ行也 後子モケレ方ニナラヒシヲ元良モノ行シテ拾遺集ニ侍

のまぬひらううーあまぬのうら

あまぬのひて孫あひそあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

あまぬのあまぬのうら

江平三云くまなり
後撰作者兼香殿官女
元良陽成院二宮

拾遺集
兼香殿
元良陽成院二宮

津國也

かんぬきさうりける

大納言身之十八年薨

おまの美のわらわお初そのむすめおすし新を

しよまのあまのあまのわらわしひうおあはしあ

ておわりのこりあししそりあしあしひと

しあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

我々同ノ左ニハ
枕ノキリヲ拂フキ
心ニテヤチ取シテ
ト云下心アリトシ

とわりのあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
草枕上ハ例ノオニニナ
草枕上ハ例ノオニニナ
草枕上ハ例ノオニニナ

れりて枕さるるあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

とわりあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

とあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

一字不違本勅云
此名参談之中不
見橋良殖延社十

九年参談宮内二年二月卒参談常玉孫從五位上吉雄二男若守人
大和掾也

ハ哥古今ハ平貞

文カ憂世ハ門ナセリトモトヨメル平ニ并テ又侍リ

わりのちるぬいりの西のわくらり

うさささしけりあけひてあぶ

とあんのち新なり 梅のまゝあかりとあま

ふゆのあまきまらりひまかひせな

ハ哥ハ春ノ名アルトモ只梅ハ三ノト字ナ侍

いらさるのけりさうつあはれとあまらり

けりさうふんさうあかりあれとあまらり

りり女とあまのけりあうとあま新あまあ

らあれとあまらりさうあまらりあまらり

ひひあまのあまらりさうあまらりあまらり

我モ向思ハヌハアフラチト忠フルトハウチトルモセヌアハラツカラヒト人ニ見ユルト也
終ニトモ又心ナガラ人ノウチトルモセヌアハラツカラヒト人ニ見ユルト也
セルニ堅止ヤメクテ云人ニ哥也

いささかあまらりさうあまらりあまらり

とららりあまらりさうあまらりあまらり

あまらりあまらりさうあまらりあまらり

りりさうあまらりさうあまらりあまらり

うさあかりけり

昔あま中あまらりあまらりあまらり

かんあけり女ハ山陰の中納をのみあまらり

あまかん云けりあまらりあまらり

伊勢守ノ妻ニ業平ノ娘ナリタル也

あまらりあまらりさうあまらりあまらり

山陰中納言実名
之未藤高ノ男
吉田社建立也
人也

在源伝春也業平ノ男ナリ故在次君ト云

伊勢守ノ妻也或云シキナリ人ヲ女ニシテテラケル也
伊勢守ノ妻也或云シキナリ人ヲ女ニシテテラケル也

戸栗ニ白檀弓鞞トキ
キソヒシ時ニワキモカ
母ニタラクシツタニキ

里のわかれのころの
たのしみは
あかしの水に
あかしの花に
あかしの鳥に
あかしの虫に
あかしの草に
あかしの木に
あかしの山に
あかしの谷に
あかしの川に
あかしの海に
あかしの空に
あかしの地に
あかしの石に
あかしの土に
あかしの砂に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に

南時也

はげ万葉九云過草屋墓時作歌一首并短歌
イシノ蓋荒下チアト競ト事トヒケテシテ一
葉トマキキヤラ立シハ永キ世ノ語りシマ
ミホノ道ノヘチクリイハニツルルヲ
ナルトニ行ヨリテサキナク日ワヒ人ハナ
イトメカノ奥城トヨレシメタニシカレ
イニレハ竹田下子ノ妻トシテ荒會
ヲコトハサトハイサケケト云詞也
兵ハカロクトキヤヨキニル也サ
ハ所ノ名也ソキツキハ墓也
カネリツリヤラニモコトモモ
今ニ首見荒會墓歌アリ物託
畧々

あかしの川に
あかしの海に
あかしの空に
あかしの地に
あかしの石に
あかしの土に
あかしの砂に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に

四茶房口傳号阿傳

多ハサラン大和物

あかしの川に
あかしの海に
あかしの空に
あかしの地に
あかしの石に
あかしの土に
あかしの砂に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に
あかしの雪に
あかしの氷に
あかしの霜に
あかしの露に
あかしの雨に

わが心はなほおもひつゝ
あはれなるはなはた
いへばわが身をわが
まはらばなほおもひつゝ
わが心はなほおもひつゝ

わが心はなほおもひつゝ
あはれなるはなはた
いへばわが身をわが
まはらばなほおもひつゝ
わが心はなほおもひつゝ

當時也

わが心はなほおもひつゝ
あはれなるはなはた
いへばわが身をわが
まはらばなほおもひつゝ
わが心はなほおもひつゝ

茶房口傳 号阿佛
和泉國 和泉郡 和泉村

わが心はなほおもひつゝ
あはれなるはなはた
いへばわが身をわが
まはらばなほおもひつゝ
わが心はなほおもひつゝ

和泉

よのこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
女おのひまうらふ

よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ

とらふてはひひらりか川おのそふて志たりのわいあ
とあらりのぬあやわらそふて志たりのわいあ
お男おたりしひひらりか川おのそふて志たりのわいあ
わいあそふて志たりのわいあそふて志たりのわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
ありのこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
城乃こゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
河のこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ

戸葉ニ親族トモ井ヨリ
アツリナカキ世ニシテ
メトキキ世ニサタリ
ツカニトシ女塚中ニ作リ
ヲキ男ツカコナメカタ
ニツクリヲケリトアリ

或本云
伊勢非更衣但諸本
奉行ハサモ云ルナ
シ

女所子
勅云均子寛平中五

よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ
よこゝろの思ふはこゝろの思ふとこゝろの思ふとわいあ

母官屋子依后殿号女二宮後代祐高親王又崇維才四号高倉女二宮一
女もありの

三

伊勢ノ哥ニ答ル心ニヤ
浮塵ニシテ心ノ実ナラズ云々
心ニシテ心ノ実ナラズ云々

又久
伊勢ノヨミカクニ成テ右宮ノ白セケヤ或説ニハ又右宮トヒイリ

是ハ太真カ免覺ヲ来テ道主カ
海ノ蓬萊ニ至シテ
トモ侍キリ也太真
ト云名ノ西山ト北山ニテ
後於是ニ入テ

伊勢ノヨミカクニ成テ右宮ノ白セケヤ或説ニハ又右宮トヒイリ
海ノ蓬萊ニ至シテ
トモ侍キリ也太真
ト云名ノ西山ト北山ニテ
後於是ニ入テ

わがこゝろは
勅云曲侍春澄朝臣給子古今作者寛平遺誠云月給之物等類
總可成命給子朝臣自昔知系所之事一生之間猶念兼和之云々

わがこゝろは
勅云曲侍春澄朝臣給子古今作者寛平遺誠云月給之物等類
總可成命給子朝臣自昔知系所之事一生之間猶念兼和之云々

わがこゝろは
勅云曲侍春澄朝臣給子古今作者寛平遺誠云月給之物等類
總可成命給子朝臣自昔知系所之事一生之間猶念兼和之云々

わがこゝろは
勅云曲侍春澄朝臣給子古今作者寛平遺誠云月給之物等類
總可成命給子朝臣自昔知系所之事一生之間猶念兼和之云々

カクハハ年也逢
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

又ひ
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

又ひ
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

又ひ
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

是ハ前ノ哥ニ答ル心ニヤ
心ニシテ心ノ実ナラズ云々

又ひ
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

我身トワ水底ヲス
ナカラミシカトハ心ヲ
ナカラミシカトハ心ヲ

又ひ
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也
カクハトウケテ也

土佐日記　バヤセリ
日モエラヌカセニケ
宇治於途ニモ想
湊和名　知鬼ト
ヨメリ乞食ナレハ
癡ナト云テ　漢ニ
漢ソマリ

ら也の盛なり有りやちりやみろも厚くありんて
 邦一のけりそのおまけんといふけりわがひさりのか
 らんかあまかりかんワヤト、心也きまきとまらきあまのり
 さいのい。一葉。まらりののきりさのいけりやと
 わのきをかたかろのゆをたけとありひらふきしうたひ
 せきねやいといしゆうるゆ土佐ヤマト催シタルヤト也ありしものあまきり
 とつかりけいおわいよあひさるおとこのこひのさうお
 知高ヤカヤノカネノ何茶僧組ニホリヤトヤリ
 けすことなゆこのろゆるまふりのあまりきねか
 わとみかふまのんとらありてとわすのけいしとるゆ
 ありていまるおとわたりこれとるんくろく思ま
 り　ふまのわりのらつたりのことおせよわ
 りんとお勢のゆるりのららりの無用ノ物ヤト也ありといぬけり
 人々也

あひなれとあろるきとまらりあはれかひひくた
 車ののちらういあひいせに勢よんあなとつひ
 こ乃男のなかとつみかふそれありきりつとわ
 せいりかおのわさなひくろくふゆらんゆか
 けつひくかたれたれなま供ノ心ヲ寄ル思ヨラヌナレト也けりあきこのよ
 とあろるりかん思をゆうてそのあは乃男の
 乃あしころせまおつとわわわ乃わひひあろ
 せいといひなれなすらありのふたあろこのおわく
 ゆらんあまわらんといひさる志あてしきひひ
 くのりけしおとそせんあふるあふさすしき
 乃るああのおさたらり子の男ゆものゆらああ
 たりわきしふまゆとあく思ふおれりて
 人々也

け本々

今在也袋袋法人在勅文云如方業人唐初始於藤原中
宗之及敦光之人唐贊亦云仕持統文武之聖朝遇新
田高市皇太子又武説云在神皇元三月三死聖武白二
月三即位七八彼朝仕此方程ナラスケ段文武ト
コトナリ也ク侍リ又ケ次ニ竜田川仁葉礼テハ制ナリ是ヲ
尊ニ奈良帝トイハレニ京極黄門ノ文武武トナリ終リ
トシコトナリトイハレニ疑ナキヤ但又或人右京集ナリ
貞應本ニハ文武ト阿佛ノ事終リ嘉祿年ニハナシト云
明ノ説トヤモ云リ然可尋ク

官女ナト、
セツ有シ
ヲ額ニヤ
大和ナリ
五ナキニ
在厚ヲ行

捨也
おとけり又その心は思ふにあらざる
おとけり又その心は思ふにあらざる
おとけり又その心は思ふにあらざる
おとけり又その心は思ふにあらざる

此白お初し一輪く思ひや
保千服有し付テ又内女モサント思ハルサ也
てし女の思ふに思ふに思ふに
あつりふふらんを思ひ
ぬたりきりひさく
はれ也
イナキテイ也
ナトトイハレナリ又催馬楽ニナシ掃ハタリ
トナリニヤ侍ラン
名トイハレナリ又催馬楽ニモ不吐トヤ
思ハレナリ又催馬楽ニモ不吐トヤ
ナトトイハレナリ又催馬楽ニモ不吐トヤ
思ハレナリ又催馬楽ニモ不吐トヤ

昔よりありと云はれり
くらのうらうらうと
しとあひなれとわたり
くまのりぬくわしたる
めくくくくくくくく
あつりとあひなれと
ゆくとあひなれとあひ
くくとあひなれとあひ
世ふゆきとあひなれと
さの流るる水とあひな
あつりとあひなれとあ
あつりとあひなれとあ

人丸忌日三月十八日
續日本紀ヤレニ
三

跡をのり乃所り乎行幸也ゆきし跡をのり

小あらし海をたす拾遺 吾妹子ト毒也あらしの丸

拾遺 吾妹子ト毒也 寝乱髪也 跡をのり

跡をのり海をのり

とらぬり乃所り

五津カシカハト八身ヲケテ屋ノモクシテモルハサテカノ腰末ノ裳ニ入行ルヤオボルハ教ラレハ水ヲカハラガテ地モフラニ
万葉ニカカラコノ身ヲケテモルハサテカノ腰末ノ裳ニ入行ルヤオボルハ教ラレハ水ヲカハラガテ地モフラニ
イタメル哥モハナシ也

とらぬり乃所り

てなんふらせあり

百五十三

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

とらぬり乃所り

天子ミツカラスハ竹ヲ
サテマカ

己巡符
心ナシ
モ侍ニ
マ

モトヲハトヤリ
彼下向ニ上白ヲサ

勳云 百幸
平城天皇大同天子桓
天子ヲ平城ト奉
大同四年四月朔日ニ

春蘭夏蕙十ト名
内心アリシカト私源
心ニモカナフコトナリヲ

ムハ巨也カト云心也
ノ諸臣ノムハ光孝ヲ
キ行類心ナラシカ

百幸六

とつしむるもふさふさおきよきそのははあはれ
厚りつゝささきもふさふさおきよきそのははあはれ
もあはれつゝおきよきそのははあはれおきよき
さうせむさうせむさうせむさうせむさうせむ
らんせぬ目おきよきそのははあはれおきよき
のせむさうせむさうせむさうせむさうせむ
退心正体ナキ也
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ

のこもふさふさおきよきそのははあはれ
さうせむさうせむさうせむさうせむ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ

武才皇子 愚妄桓武延暦三年奈長山城長岡遷都又同十三年平城遷都之ヲサセ也
皇天弟境城帝即位ヲウラセテ平城ノ舊都ニ遷都シテ之ヲ改メ
坊名ヲ改メテ平城ノ舊都ニ遷都シテ之ヲ改メ

ノカハルヲ蘭ヲ兄蕙ヲ弟也用也
シタカフハ世ノ思ヒシラセテ志ヲアラハシケルニヤ又只サラストモナリ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ

東宮ノミトリ行ハハ色香モ入ナド心也又彼頃ニタカフ又トノ
昭宣公ノ御心也
其人ノモチナシカラニ威徳ノ代アラハル申ノ御心也

おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ
おきよきそのははあはれおきよきそのははあはれ

袖中抄云題詔云
 子ウケ島トハ三馬
 古今ニ返哥ナレ奈
 横津回ハ通フ道
 ハテトヤウク詞也
 ナクク立田山ノ一
 返哥序哥也界

心よとけりけありなほおすそと紀のこゝろ
 るまうららせめておきておまもりのこゝろ
 おまうららせめておきておまもりのこゝろ
 中おわありとておまもりのこゝろ
 幸うららせめておまもりのこゝろ
 へとせしむたれおまもりのこゝろ
 とららせめておまもりのこゝろ

云也世也大カレキ時四境政トテオホアテセセセニ鶏ニ木綿ヲ付テ四方ノ閑ニ至リテニル也又云ケ哥
 良ニテ立田山ノ一返哥ナレ奈
 ナレハ西ノ國ニテ子付馬ヨシキチヨリヤリ
 哥心ハサノ只ナキニ
 ナラ付馬ニヨセテノルナルニ
 或ナラキナキ本紀天智天皇世同サハキ時四境ノ坂上ノ自反鈴鹿ノ須戸
 立田山ノ一返哥ナレ奈
 大納言カニ返コトナレ
 内舎人
 ナレニ

了紀のこゝろなれおまもりの
 昔本紀の女おまもりのこゝろ
 心よとけりけありなほおすそと紀のこゝろ
 るまうららせめておまもりのこゝろ
 おまうららせめておまもりのこゝろ
 中おわありとておまもりのこゝろ
 幸うららせめておまもりのこゝろ
 へとせしむたれおまもりのこゝろ
 とららせめておまもりのこゝろ

大納言カニ返コトナレ
 内舎人
 ナレニ

廻上モリ寺ニタツト
キ佛事ナトスルヲ
ミロントタバカル也

おえやとてまきおひくくかえりわらひておれあ
ふあふせりし也ウツキヲキテオホキ心也
ぬいそひつハシメテオホキ心也
らとせあふれかせれまひてふひせんと思
もあり月のおとわらぬ夜あふあふイナヒニセト云
うたふれまひしひあつてもせあふんイナヒニセト云
るのあつてもひく腰モタナリ
すまひそのおほあふイナヒニセト云
物のあつてもわらぬ夜あふイナヒニセト云
とつとわらぬ夜あふイナヒニセト云
ひららたけけけイナヒニセト云
年此おのどとくイナヒニセト云

後松ノ
遊名抄ハ母ノ哥トナリ

くわらてせせふとせせふとせせふとせせふとせせふと
まひあつてもわらぬ夜あふイナヒニセト云
右ノ歌トナリ
おえはひくくイナヒニセト云
とらまへてなれん又のあつてもわらぬ夜あふイナヒニセト云
後かんおえすイナヒニセト云
こまはひくくイナヒニセト云

百六十

下巻の西ノ男女ははるのきりさうイナヒニセト云
とふおとめあつてもわらぬ夜あふイナヒニセト云
あつてもわらぬ夜あふイナヒニセト云
とつとわらぬ夜あふイナヒニセト云

叶詞業平人返事也

大幣ハ後スル時麻草
市ニ心トメヨカスアリ
オソクニクト也心定

面何リヨシモモモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ

百六十四

夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ

心ヲト云ニ同シ其アラヒミラスルハ心ノアリシテ人ヨホトゲ行ハヌ故ト也
心ハ心也
大幣ハ後スル時麻草
市ニ心トメヨカスアリ
オソクニクト也心定

とぞんひひやとせたりな中物
スナリ上ルハ何トモ知シキヲサスヤヒキラシクシテ其ノ名ヲテ其ノ名トシテモヨク實ヲ知
昔チヤヤヤヤ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ

ひひやとせたりな中物

如あんなひひや

在中物ニ業平の返事なり乃其まゝみとひひやつと

夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ

百六十五

とぞんひひやとせたりな中物
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ

百六十六

夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ
夕人業平ヲイタリ
テ云リ實ニ夕人ニテモ
夕シゾトセサホド
ハコソヤクアラヒモ

志レハト御定シホ...

もふふとやらん是ハ...

あなうのあかりの...

とが心ありけりあや...

百六十七

在中おほまほしの...

百六十八

つりけりぬ井を...

菊ノクニ...

百六十九

あなうのあかりの...

あなうのあかりの...

とそとせしや...

百七十

あなうのあかりの...

あなうのあかりの...

あなうのあかりの...

あなうのあかりの...

あなうのあかりの...

元慶四年五月廿八日卒

病中ノシノシ目見ル所ノ消息ヲソナリサメ今日ハ病モモロイト、怪モキニトフライヤキヤト也
 此ノ書ハ昔ノ時ノ書ナリトモモロイト、怪モキニトフライヤキヤト也

あつたはすくくせんわ

とそしきせたりうらぐあひありそやうそ

なれうあさして運来あしとせんとするれとふ

あふりとううして心もわらりあひありあふ

んとするゆゑもわらりうらぐあひあり

古今 此のあひありあふり

このあひありあふり

とらうそかんたうそあふり

百七十一 在中物物見よそくあふりうらぐあひあり

うらぐあひありあふりあふりあふりあふり

うらぐあひありあふりあふりあふりあふり

大鏡ニ奉ノ信ノヲ
 フノロレキスキモチ

とらうそかんたうそあふり
 在中物物見よそくあふりうらぐあひあり
 うらぐあひありあふりあふりあふりあふり

古今 あつたはすくくせんわ

とらうそかんたうそあふり

知テラソ其竹逐モ忘カシト思キナシ只モアラスミモセ又程人ヲ恋ルトアルハ誰ト知テカハノ所

あつたはすくくせんわ

百七十一 此のあひありあふりあふりあふりあふり

あつたはすくくせんわ

あつたはすくくせんわ

あつたはすくくせんわ

あつたはすくくせんわ

あつたはすくくせんわ

とそ娘おひなはこれカク誦經下侍ト編後ニアルトシテ 五ノト
ひきくゆわぬあおまの乃相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
おやあまのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
てまこらうのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也

吉 つかかりのこらあまのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也

とわりのあまはひなはあまのこツヨク下九トイハシメ也 十セル也
ひきくゆわぬあおまの乃相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
おやあまのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
てまこらうのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也

順子ニ明天皇之石文徳之母石左大臣又嗣女
あまのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也

山とわりのあまはひなはあまのこツヨク下九トイハシメ也 十セル也
ひきくゆわぬあおまの乃相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
おやあまのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也
てまこらうのこ相ニ降シ世捨人ニ合シキヤ伊物ニ相ニ手ハ又真ヲ 十セル也

かたして物さあし... 朝也期えん
と云心

不和也今子トモウヲ志スヨシヲハニトテ古号ヲフト云終ハ元ヤリニ見侍ラニカ

ハ心ヲラテテト也

とあやうけり... けりすま

んまわすけの... 文ニ主
同或作明時兼和比人ト草ニ小野小町カハハメテサスオトロタルト玉造ト云

同人ト定

情懐公

後換ニ救慶ノカこの
カエマヤクニシテ
左臣
と云ふ事ナシ
馬ノミヤニシテ

富士ノ烟立テ絶ス

海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり新なりとのまふ官事也
 りひまゆとあかきあひなれり誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ

海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 海の丸の印情懐公くおわすしもの志あかろり時敦慶は成らぬ
 こつむんあま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 小のひま誰上モ不スり時敦慶は成らぬ
 ひと誰上モ不スり時敦慶は成らぬ

近江国八印草ノノ國ノ呼無下ニ不知ホテモ為テ運所ノ時ヲケセ也

真名序云
大伴里主之歌古

近江多餐ノ申ヨア
キキニ心トシラセ
ヤト原ニヨクテ近
新千雅里主

すけりたりとんやそくろせ新らひかたの候
よのほのあすあえはさしりやまをほく
し菊のふあふありらささうて申まうけけ
いしあまりたりあふりてはるおそまそわ
大伴里主之歌 遠海御體 聖賢之息花前也
わしゆすく心程まな上人あわぬはあそ
はあぬそそひらり院し水車よふをぬそ
あしよろあわろそとらせ新らひかたの候
サレバハサ浪上同遊江一ニ大テト奥系抄侍心ハ棚水良
けの下下ニうららけしゆあはれしゆわあり
は守ノ忠節ヲアラハシタリニモノリ岸ヲト云ニイタリテ奔走心アルヤ
サレ浪障ナク岸ヲ洗ハセ清涼ハキテニミヤヤ
しりあひらりしゆこれおめし新らひかたの候
人倫ヲ知ルル知解ヨリヨシチカシトヤヤ百今序ニ侍ルニトナルヤナ
んておめし新らひかたの候

百六十七

いしあまりたりあふりてはるおそまそわ
めくあひらりしゆこれおめし新らひかたの候
て見りしゆかみるらりあつひらり屋の志やおまを
く屋敷に坐ラフトヨメリ
いしあまりたりあふりてはるおそまそわ
人あまみかぬまの肉りあひらりあまのまぬらぬ
のうまそそわらひらりてはるおそまそわ
らりあひらりしゆこれおめし新らひかたの候

古今
梅花見ニソキツ
人ククトイトヒ
我キナリチハアヒ

誰モトクナ家ニモテラヌ物ヲ鶴ノ人クト云ハイカニトカノスサセタル哥也
とひらりしゆこれおめし新らひかたの候
いしあまりたりあふりてはるおそまそわ
かき新らひかたの候
いしあまりたりあふりてはるおそまそわ



此語部世ヲイト
冬今祇洋ニウツ
衣ヲクシテラフメタル

此と云ふは世に別車ありて由ありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり
こころむらまのわさぬくはありてわさぬくはあり

大和物語下終

慶安元孟春仲旬
二條通玉屋町村上平楽寺開汲

